

農業技術

プリズム

温州ミカンにおいて、定植後の根の活着不良は、その後の生育不良につながり、樹冠拡大が進まず収量に大きく影響します。そのため、根の活着をよくして木の生育を促進するため、アミノ酸・有機酸強化濃縮液の株元施用による生育促進技術を検討しました。

「長崎果研させぼ1号」の21カラタチ台ポット(25L)育苗の6年生苗を2017年4月、圃場(ほじょう)に定植。その後3年間、毎年5〜8月にアミノ酸・有機酸強化濃縮液200倍液を3回(1回1樹につき3L)、株元施用しました。アミノ酸・有機酸強化濃縮液に含ま

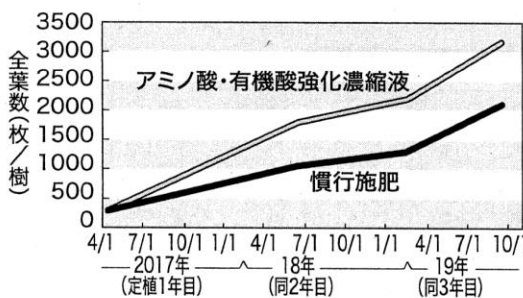
れる窒素量(3回分1・35g/樹)を考慮し、夏肥の施肥量から差し引き、年間窒素量は慣行施肥区と同量としました。

温州ミカン定植後の生育促進

アミノ酸・有機酸強化濃縮液を株元に施用

その結果、アミノ酸・有機酸強化濃縮液を施用することで、定植から3年後の細根量が慣行施肥に比べて多くなり、全葉数

「長崎果研させぼ1号」苗木定植以降の全葉数の推移
(注)数値は各区5樹の平均



も増加しました。この方法で育成期間中の生育が促進され、早期成園化が可能となり、初期収量の増加が期待できます。
(県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室 主任研究員 法村彩香)